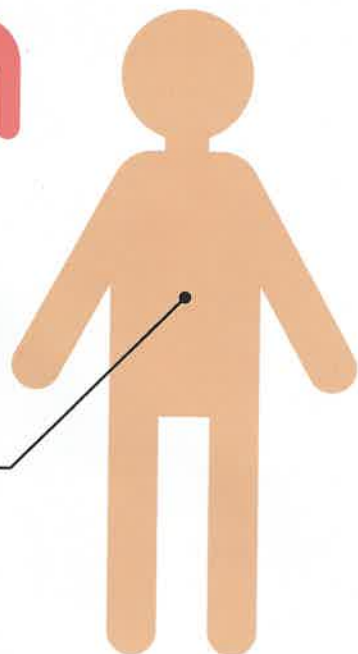


臓器のはなし



今月は 新型コロナとの向き合い方

重症化リスクは減少
予防は生活習慣で

薬による対症療法で
ほとんどは回復

新型コロナウイルスへの警戒度が高まる時期になりました。2025年夏頃から、「ニンバス株」という変異タイプが流行と報じられたのですが、私の周辺ではニンバスの典型的な症状を訴える患者さんは、今のところいっさいいません。Nimbus

「ニンバス」という名称は正式な分類名ではなく、ウイルスの系統名「NB-18-1」からついた愛称だとか。初期は風邪に似た軽い症状で、数日後にカミソリで喉を切られたような激しい痛みが、急に襲ってくるケースも。なお、従来の検査キットでは、ニンバス株であることまでは判定できません。

集団感染のリスクは相変わらずで、インフルエンザと同様、感染力は健在です。私の担当している高齢の患者さんで、亡くなる方は、以前よりは減少していますが、虚弱な方が感染した場合には重症化のリスクが高いようです。また厚労省の統計によると、死亡者は年間3万人以上で、そのほとんどは65歳以上とのこと。まだ、高齢者は注意が必要です。

現在は、ラゲブリオ等の治療薬があります。症状が軽い場合はカロナールを服用すれば、1週間ぐらいで落ち着くようです。大半は軽症で、重症化する人は少なくなっています。

予防の基本は変わらず
手洗いとマスク

新型コロナウイルスは、重症化

しやすい方(65歳以上の高齢者・基礎疾患がある人)が、予防のために継続して接種されております。ウイルスが変異を繰り返すため、せっかく開発・製造したワクチンの効果が以前よりも落ちているのではないかと、という話もあるようです。

副反応を心配される方も少なくありません。接種後の短期的な副反応については、私が注射を打った方のなかにはアナフィラキシーショックのような副反応は出ていませんが、熱が出た方や、打った所が痛いという方はいらっしゃいました。長期的な副反応については、実用化されたばかりのワクチンなのでデータが十分とはいえず、正確な検証には、まだ時間がかかるでしょう。

新型コロナウイルスは第14波、第15波と続くかもしれません。けれども、致死率は徐々に低減化しており、対症療法もあるのが現状。感染するかは、ウイルスとの力関係で決まります。手洗いやマスクでウイルスのブロックを心掛けている人は、注意していない人に比べて感染しにくいはず。体力、免疫力をキープする生活習慣を心がけてください。

監修

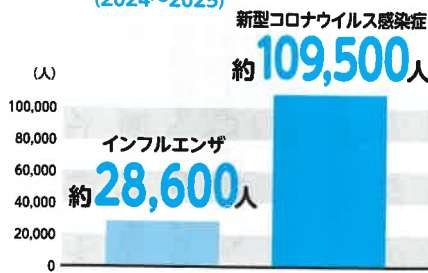
浅海 直
あさうみ すなお

(医療法人社団
平成医会 産業医)

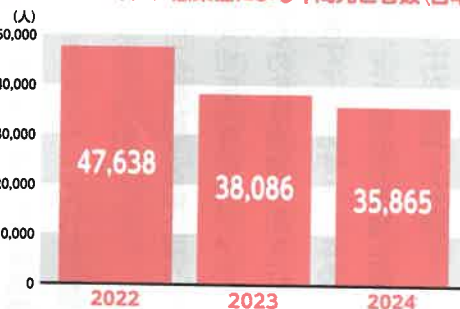


1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)。2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。

感染症による入院患者数
(2024~2025)



新型コロナウイルス感染症による年間死亡者数(日本)



出典：厚生労働省「新型コロナウイルス感染症に関する報道発表資料(発生状況)2025年」,
「インフルエンザに関する報道発表資料 2024/2025シーズン」